『順理則裕』の精神を受け継ぎ

技術を進化させながら 社会を「ゆたかに」

前身は渋沢栄一が会社創立に奔走した大阪紡績。明治初期、近代化で成功を収めた民間初の大規模紡績会社である。 渋沢の座右の銘の一つとして社内に伝えられてきた『順理則裕』という儒学者の言葉を 「なすべきことをなし、ゆたかにする」と読み解き、社会の発展と自社の成長を目指してきた。 長い歴史の中で祖業である紡績の技術を進化させながら

紡績を超える事業の柱を打ち立て、社会への貢献を果たしつつ新市場を切り開いてきた。

『順理則裕』とは何か。その意味を読 み解けば、「理に順えば、則ち裕なり」。 一般的には「道理に生きることが、す なわち繁栄につながる」と解釈される。

渋沢栄一風に言えば、公益を追求す ることが、私益をもたらす。渋沢の提 唱する「道徳経済合一説」の思想とも重 なる言葉。東洋紡の企業理念である。

その企業理念を、東洋紡では2019 年3月、再定義した。「なすべきことを なし、ゆたかにする と、能動性を持た せた現代語で、新たな解釈を与えた。 取締役会長の楢原誠慈氏は語る。

「当時、東洋紡は新たな局面を迎えて いました。紡績技術を応用した技術で 事業を拡大してきましたが、今後、ど のような会社に成長させるのか――。 そう考えた時、原点に立ち返る必要を 感じたのですし

渋沢が大阪紡績を創立したのは、明 治初期の1882年。「このころ、木綿製品 は輸入品頼みで貿易赤字の原因にもなっ ていました。そのため、繊維産業を国 内で育成することを渋沢さんは思い立っ たのです」。

繊維産業といえば、衣食住の「衣」を 支えるインフラだ。日本の社会に必要 な良質で安価な繊維製品の供給も同時



正区内に立地していた。写真は会社創立から5~ 10年後の明治20年代に建設された3号工場

に求められていた。

技術の力で社会課題の解決を図る。 その精神は脈々と受け継がれ、1960 年代以降、祖業からの応用技術で新し い事業を生み出してきた。事業分野は、

「フィルム| 「ライフサイエンス| 「環境・ 機能材| 「機能繊維・商事|の4つ(右| 図)。このうち[フィルム] [ライフサ イエンス」「環境・機能材」の3分野を、 収益性・成長性をともに見込む重点拡 大事業に位置付ける。

技術と素材を組み合わせ 課題解決型の事業を創出

まず合成繊維の原料を薄く延ばす 技術から生まれた[フィルム]だ。食品 保存に用いる包装用や液晶パネルに組 み込む偏光子の保護フィルムなどの工 業用を展開する。食品包装用フィルム



は国内トップクラスのシェアを持ち、 偏光子保護フィルムは全世界のテレ ビ用液晶パネルの2台に1台以上の割 合で使われているという。

食品包装では、海洋プラスチック問 題やサーキュラーエコノミー(循環経 済)を背景に環境配慮が喫緊の課題 だ。廃棄物を削減するため性能を保ち ながら薄さを追求したり、リサイクル を念頭に植物由来の原料を使用したり するなど、様々な角度からの対応策を すでに取る。

次にバイオ事業やメディカル事業を 柱とする「ライフサイエンス」だ。一見 すると祖業とは関係なさそうだが、そ うでもない。

バイオ事業は、化学繊維の原料の一 つであるパルプの廃液処理に環境配慮 の観点で酵母を用いたのが、取り組み のきっかけだ。酵母が生み出す酵素の 機能に着目し、研究開発を開始。各種 診断薬の原料酵素や研究用試薬などを 製造する。

メディカル事業も、起源をたどれば 祖業の紡績技術に行き着く。血液透析 に用いる人工腎臓用中空糸膜が、その 典型だ。今ではこのほか、医療機器用 の抗血栓性素材やコラーゲン使用人工



2022年、創立140周年を機にJR大阪駅前に立つ 商業・オフィスビルに移転した

■東洋紡グループの主要4事業。いずれも、祖業の紡績技術を応用した技術を基盤とする

フィルム

- 工業用フィルム 偏光子保護フィルム
- 包装用フィルム



ライフサイエンス

- バイオ 診断薬の原料酵素 研究用試薬
- メディカル 人工腎臓用中空糸膜 医薬品製造受託



環境·機能材

● 樹脂・ケミカル ● 環境・ファイバー 中空糸分離膜 (海水淡水化装置)





機能繊維·商事



機能繊維 ●衣料用繊維 ●商社機能



骨などを製造する。

「環境・機能材」には幅広い高機能素 材がそろう。例えば、より小さなエネ ルギーで海水を淡水化する中空糸分離 膜やVOC(揮発性有機化合物)の回収 に用いる活性炭素繊維などがある。 合成繊維や不織布化の技術を応用し たもので、環境負荷の低減や環境の 良質化に役立つ。

この分野では、顧客の要望に応えた製 品開発を通じ、技術を磨いてきた。例え ば再生可能エネルギー関連では、浮体 式洋上風力発電装置を海底につなぎ留 めるのに利用可能なスーパー繊維があ る。高強度だが軽く、引っ張り力を加 えても伸び切らないのが強みだ。

事業分野は異なるが、技術の力で社 会課題を解決しようという精神は変わ らない。「時代の変化を鋭敏に感じ取 りながら、その時々に必要なものを技 術と素材を組み合わせ開発してきまし た」(楢原氏)。

社会課題を能動的に捉え 「なすべきこと」をなす

この社会課題の解決こそ、東洋紡に とって[なすべきこと]の象徴だ。[な すべきことをなし、ゆたかにする|と いう新たな解釈は、社会課題の解決を



グループの従業員は、「理念」をはじめ、「めざす姿」 や「大切にすること」などをまとめたカードを携行

能動的に捉えることを求めている。

まさに、まず公益を追求しようとす る姿勢。「『みんながうれしいのが一番 なんだで』――。 渋沢さんをモデルに したNHKの大河ドラマで母のゑいさ んが幼少時の渋沢さんにこう語りかけ ていました。今後の事業にも、『自社 さえ良ければ』という構えではなく、『ス テークホルダー全員が良くなるには』 という構えで臨んでいきたい|。楢原 氏は改めて渋沢に思いをはせる。

『順理則裕』とはすなわち、社会課題 の解決を通して社会を良くし、自らも 成長する、という企業理念だ。それは 年月を超え、東洋紡の中で確かに受け 継がれている。

TOYOBO Beyond Horizons

